

～まちの話題～

日本農業賞 優秀賞を受賞

「阿久比米れんげちゃん研究会」



町長に受賞の報告をする阿久比米れんげちゃん研究会の皆さん



肥料となるレンゲ

阿久比米れんげちゃん研究会が第三十五回日本農業賞優秀賞を受賞しました。

日本農業賞は、全国農業協同組合中央会や日本放送協会（NHK）などが主催して、日本農業の確立を目指し、意欲的に経営や技術の改革と発展に貢献している農業者と営農集団に贈られる賞です。

れんげちゃん研究会では、レンゲを田んぼにすき込んだ有機肥料を使い、「阿久比米れんげちゃん」の米栽培を行っています。

温暖な地方でのブランド米化の成功やレンゲという有機肥料を使った米栽培の実績が評価され、全国百七件の応募の中から、集団組織の部で見事優秀賞の受賞となりました。

三月三十一日、研究会の竹内五一さん（会長）、杉浦幹夫さん（副会長）都築重信さん（相談役）が町長室に受賞の喜びの報告に訪れました。



家族経営協定書に署名する認定農業者の皆さん

農業者に認定書

三月十五日、オアシスセンターで農業経営改善計画認定書授与式が行われました。

研究会の皆さんは「平成四年に米のブランド名を「れんげちゃん」と命名して世に送り出しました。最初のころは自分たちではおもしろいと思っただけで、消費者の方におもしろくないと言われ、ショックを受けた時期もありました」と振り返り、「試行錯誤して消費者の方と直接付き合い、

意見を聞き入れながら米作りに取り組んできた結果が今回の受賞につながりました。今では試食会などでおもしろいと言われるようになったことが何よりもうれしい。これからも一生懸命努力して、皆さんの期待に応えられるようにおいしい米を作っていきたい」と抱負を話していました。

町では今回、個人を三十八件（連名十一件）、法人を一件認定しました。これは、自らの経営をより良いものとしていくために、五年後の経営目標を達成するための改善計画を認定したものです。

この日出席した農業者一人ひとりに町から認定書を手渡しました。

また、連名十一件の認定農業者とは、「家族経営協定書」を結びました。経営を主に行う者と妻や後継者が、責任のある経営の参画を通じて、近代的な農業経営を確立し、営農方針や役割分担、収益分配の取り決めなどを事前に話し合うなどの内容を書面で取り交わしました。

「夫婦や親子という関係で、仕事がなれ合いになりがちだが、協定書を結ぶことで、自分たちの役割分担などがはっきりする。しっかりと頑張っていきたい」と出席者は話していました。